



2022年2月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	1	2	3	4	5

住所:東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
 メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
 TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2022年3月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	

・春はもうすぐ
 ・花粉に注意!



ホームページ
 院長ブログ公開中



「今月の言葉」
 "Cerca trova" (求めよ、されば与えられん)
 (ヴェッキオ宮殿の壁画より)
 ヴァザーリ

休診日	午後休診	18時最終受付
一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12:00-13:00	15:30-16:00

＜お知らせ＞
 新型コロナワクチン追加接種行なっております。
 中央区の新型コロナワクチン特設サイト、
 またはTEL0120-421-062よりお申し込みください。

近すぎて見えないもの

寒い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。
 先日、茅場町駅のホームで『フェルメールと17世紀オランダ絵画展』のポスターを見かけました。絵画展は1月22日から東京都美術館で開催予定でしたが、新型コロナの影響で残念ながら延期となりました。ところでこの絵画展の目玉はなんといっても、フェルメールの「窓辺で手紙を読む女」でしょう。この有名な作品は昨年修復が完了し、ドレスデンにて公開されました。修復後、全体的にくすみが取れ、鮮やかな色彩が戻りましたが、何より驚かされた事実は作品の白い壁からキューピッドの絵が現れたことでしょう。以前からX線写真により背景にキューピッドが描かれていたことは分かっていたようですが、近年の研究によりフェルメールの制作の数十年後に塗りつぶされたものと分かり、その壁の塗りつぶしが除去され背景にキューピッドが出現しました。このキューピッドの存在から、女性が読んでいる手紙はおそらく恋人からの手紙であろうということが推察されます。このように絵の修復により、その絵の本来の姿やそれが表す意味が明らかとなり、新しい発見にはワクワクするような気持ちで注目しています。

修復によってその特徴と思われたものが失われるということは他でもあります。先ほど挙げたシステーナ礼拝堂の壁画(天井画)の修復にも実は批判があるようです。ミケランジェロがあのような鮮やかな色彩で描いたことに私は驚いたものですが、実はミケランジェロはカーボンブラック(黒い煤)で壁画に陰影をつけたとされていたようなのです。しかしシステーナ礼拝堂の修復チームはこの黒い陰影がロウソクの汚れによるものであると判断してこれを除去したのです。確かに修復前後で比較した絵をみると、陰影が全くなくなっている絵もあり素人目には修復のし過ぎのような感じがしなくもありません。専門家が間違えを起すはずはありませんが、近くで見れば見るほど、細かく分析すればするほど汚れと絵肌(テクスチャー)の区別がつかなくなることもあるのではないかと感じてしまいます。

私たちはものごとに接近して細かく見ていけば、物事の本質に迫れると思込んでいることはないでしょうか？

ある食べ物の効能について調べるとき、その食べ物に含まれる成分などを調べて判断することがあります。例えばリンゴにはカリウム、ペクチン、ポリフェノールが含まれていて、体によい食べ物だと分析したりします。また医学界では、病気の臓器を顕微鏡で調べて、がん細胞をみつかったり、細胞の変性を調べたりして病気の原因を探ります。要するに細かく調べることにより(クローズアップして)食べ物や病気の本質に迫ろうということなのです。

しかし、それはつねに正しいやりかたとは限らないのです。ミケランジェロの壁画に近寄って細かく観察された黒い煤(すす)が「汚れ」だと判定されたものが、遠くから見てみると彼があえて効果的な陰影を出すために使った技法であることが分かったりするようなこともあるからです。

さて、1月から再び新型コロナウイルス感染症が流行しています。新型コロナウイルス感染症については皆さん本当に細かい知識をたくさん持っていますね。もはやPCRは日常的な言葉として使っていますが、デルタ株だとかオミクロンだとか、ステルス・オミクロンだとか、30ヶ所以上の変異があるなど様々な知識をもって驚くばかりです。

新型コロナウイルスの専門家の皆さんの豊富な知識、見解もたいへん参考になりますが、彼らの狭すぎる視点や細かすぎるデータ内容を聞いていると、はたして彼らにはコロナウイルスの全体像やコロナウイルスと共存する社会が見えているのだろうか、疑問に思うこともあります。

現代社会は情報過多の時代です。あまりに細かな情報や視野狭窄した考えた方に囚われて右往左往するのは私自身はよくないと思っています。新型コロナウイルス感染症についても細かな最新情報を確認することももちろん大事ですが、一歩引いて余裕をもった視線で全体を眺めるような気持ちで対応したいものだと思っています。

